

2020 年度年次報告書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)



瀬戸内オリーブ基金
SETOUCHI OLIVE FOUNDATION

NPO 法人 瀬戸内オリーブ基金

理事長挨拶

平素は当基金の活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本報告書は、当基金が2020年度に行った活動をとりとまとめ、みなさまからお預かりした寄付金をどのような活動に使わせていただいたかを報告するものです。

当基金は、瀬戸内の自然、つまり「ゆたかな島と海」を次の世代に引き継ぐことを目的として、瀬戸内海エリアで行われる環境保全活動に資金を助成するとともに、自らも環境課題に取り組んでいます。2020年度は、当基金の設立20周年の節目に当たる年でした。これまでの活動を振り返りつつ、次の20年を見据えた活動に取り組んでまいります。

引き続き当基金への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 瀬戸内オリーブ基金
理事長 岩城 裕

瀬戸内オリーブ基金とは

瀬戸内オリーブ基金は、当時日本最大規模といわれた有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、建築家の安藤忠雄氏と、豊島事件弁護団長の中坊公平氏が呼びかけ人となって設立されたNPO法人です。2000年、公害調停成立を機に設立されて以来、瀬戸内海エリアの美しい自然環境を守り、再生することを目的に活動をしています。瀬戸内海エリアの環境保全活動に対して資金の助成を行うほか、自らの取組みとして「ゆたかなふるさとプロジェクト」、「ゆたかな海プロジェクト」、オリーブ栽培などを行っています。



Our Mission

ミッション

次の世代へ美しいふるさとを引き継ぐ

- 1 瀬戸内海エリアの環境保全と再生に取り組む
- 2 環境をまもる意識を育み、自然とともに生きてきた人類の原点を見直す
- 3 豊島事件の意義と教訓を伝える



Our Vision

ビジョン

人と自然が共存する持続可能な社会を目指す

大量生産・大量消費・大量廃棄社会を循環型社会に転換する

第1部 現在までの歩み

NPO 法人瀬戸内オリーブ基金は 2000 年 11 月に創立し、2020 年に創立 20 周年を迎えました。この 20 年間のみなさまのご支援に対し、こころよりお礼を申し上げます。

オリーブ基金では 2020 年 10 月～11 月にかけて、創立 20 周年を記念したオリーブ収穫祭・豊島展・20 周年記念式典及びオリーブフォーラム等を実施し、多くのメディアにも取り上げていただきました。

1. 20 年間の歩み

オリーブ基金は豊島公害調停が成立した 2000 年に、当時の住民側弁護団長であった中坊公平弁護士と建築家安藤忠雄氏の呼びかけによって設立されました。

オリーブ基金設立からの 10 年間は主に植樹活動への助成を実施し、植樹実績を増やしていきました。2009 年からは海洋プラごみに関する取り組みを続け、現在では瀬戸内海エリアの海洋プラごみを減らす活動の一環として、海洋プラごみへの関心を持っていただく機会の創出をめざし、スポーツごみ拾い（スポ GOMI）に取り組んでいます。

◇ オリーブ基金 20 年間の軌跡

実施年	主な出来事・取り組み
2000 年	豊島有害産業廃棄物不法投棄事件の調停成立後に中坊公平氏、安藤忠雄氏を呼びかけ人として、オリーブ基金が発足
2001 年	緑化や自然保護活動をしている団体・個人に対する助成の開始 オリーブ基金支援活動（ユニクロ募金箱設置）の開始
2004 年	瀬戸内海環境保全知事市長会議と植樹活動の協働を開始
2003 年	協賛企業の環境整備活動ボランティアの受け入れを開始
2005 年	豊島有害産業廃棄物不法投棄事件の調停成立 5 周年記念植樹の実施
2006 年	オリーブ基金事務局（スタッフ 2 名）を豊島に開設
2007 年	NPO 法人に改組し、企業との社会貢献活動の協働事業を強化
2009 年	海守さぬき会と協働した海底ごみ目に見える化プロジェクトの実施
2010 年	瀬戸内海エリアを中心に、大きな木（樹）プロジェクトスタート 認定 NPO 法人として国税庁から認定
2014 年	新規団体のスタートアップ助成・ゆたかなふるさとプロジェクト（国立公園現状回復事業）スタート・オリーブ受託栽培事業の開始
2017 年	東京都豊島区で「豊島展」を開催
2018 年	瀬戸内海エリアの海岸漂着ごみ回収活動 瀬戸内海エリアの海洋ごみに関するシンポジウムの開催
2019 年	ゆたかな海プロジェクト（海洋プラごみ削減活動）のスタート オリーブフォーラム（テーマ：海洋プラごみ）の開催

2. 20周年記念式典の開催

開催日：2020年11月21日 16時～17時

場 所：岡山国際交流センター

プログラム：

	<p>1 ご挨拶【ビデオメッセージ】 (設立呼びかけ人/NPO法人瀬戸内オリーブ基金理事 建築家 安藤 忠雄氏) 「基金の活動が、人間が自然とともに生きていることを分かってもらうきっかけになればと思う。」</p>
	<p>2 NPO法人瀬戸内オリーブ基金 20年の歩み (NPO法人瀬戸内オリーブ基金理事長 弁護士 岩城 裕) 「意義のある活動を続けてきたとの自負はあるが、反省点として活動の情報発信が十分であったかという思いがある。市民に積極的に情報を発信し、市民が参加できる活動を作って行きたい。」</p>
	<p>3 活動報告(1) 瀬戸内海国立公園原状回復への取り組み (岡山大学大学院環境生命科学研究科教授 嶋 一徹氏) 「一度表土が失われると、植生の回復には長い時間がかかる。国立公園内自然産廃処理が終わった後の植生が元通りに戻っていくことをめざしたい。」</p>
	<p>活動報告(2) 豊島とともに10年 (株式会社ルーヴ社長 野崎 幸三氏) 「企業の役割、そしてこれからの活動は、SDG'sの取り組みを今後も活動を続け、地元の未来や地球環境を思う洋菓子店をめざしたい。」</p>
	<p>活動報告(3) 漁業者の森づくり活動 (一般社団法人淡路水交会 東根 壽氏) 「漁業者によるゆたかな森づくり活動から、ゆたかな海の再生をめざしたい。」</p>

第2部 助成事業

瀬戸内海エリアで環境保全活動を行っている団体・個人に対し、活動資金を助成しています。植樹活動や環境教育などに助成する「植樹・環境教育助成」に加え、これから始めるユニークな環境保護活動などに対し、原則3年間支援する「スタートアップ助成」があります。

オリーブ基金では、適正な助成を実現するため、外部の有識者で構成する助成審査委員会を設置し、その検討結果をふまえて、オリーブ基金運営委員会が助成決定をしています。

1. 採択した団体とプロジェクト

2020年度は植樹・環境教育分野への助成として13件を採択し、助成決定額は6,821千円となりました。海ごみ関連の助成申請が増えています。

また、オリーブ基金の直轄事業である「豊島・ゆたかなふるさとプロジェクト」に参加いただいている岡山大学の研究活動や豊島小学校・豊島中学校で育てていただいたツツジを直島に植樹していただく活動にも助成を行いました。

2. 2020年度 採択団体及び助成額

府県名	団体名／プロジェクト名	主な活動の内容	助成額 (千円)
岡山	ベネッセコーポレーション／直島倉浦地区 ヤマツツジ植栽整備計画	直島倉浦地区の瀬戸内海国立公園園地事業エリアにおけるギャラリー兼休憩所を含む園地の整備の一環として、その事業エリアに隣接する斜面地に1000本のヤマツツジを植樹する。	1,100
岡山	岡山大学／荒廃地緑化研究	不法投棄現場における植生の多様性の取り戻し、外来植物を除去する活動を実施する。	485
京都	川と海つながり共創プロジェクト／京都保津川からの挑戦：内陸部から海ごみを減らそう！	流域全体での清掃活動の拡大を図ることで、琵琶湖淀川水系のひとつである保津川（桂川）から瀬戸内海の環境保全に貢献することをめざす。 こども海ごみ探偵団・保津川の日を実施する。	815
岡山	NPO 法人グリーンパートナーおokayama／底曳網体験学習「海底探検隊2020」	海ごみの発生抑制を目的として、下津井で底引き網船による「海底ごみ回収体験」を行ったうえで、講演とワークショップを行う。	450
香川	NPO 法人男木島の街並み保存推進協議会 みんなの輪／集落の空き地をみんなの庭園	淡路島の成が島で自然観察会を実施し、合わせてごみ回収を行うことにより、市民の海洋プラごみ問題への関心・意識・参加・行動実践・情報レベルを向上させる。	240
兵庫	全日本サーフキャスティング連盟兵庫協会／「釣り人の森づくりプロジェクト」～水源と茶道文化を支え豊かな里山・海づくり～	海釣りをしている団体が水源と里山を守るために、川西市黒川の水源近くにくヌギ100本植樹して維持管理する活動。クヌギは茶道用高級炭である菊炭用原料として供給する。	135

兵庫	NPO法人神戸オリーブ園／神戸オリーブ園復活プロジェクト	神戸オリーブ園復活をめざし、営林署と締結して、梅栽培農家の土地を借りてオリーブ200本の植栽している。	751
徳島	NPO 法人もっともっとネット（勝手に町おこして委員会）／清掃・リサイクル事業	町おこし団体として、泉谷川の漂着ごみを回収・美化推進の看板を立て、草刈りを年に4回行う。上板夜灯まつり、戦隊ショーも実施。	238
愛媛	NPO法人由良野の森／ブナの森づくりプロジェクト	ブナの種子を採取、プランター200、ポット4000を作る。	860
兵庫	一般社団法人淡路水交会／漁業者による森づくり	漁業者が県民にも呼びかけながら森づくりを進め、生じた徐・間伐材を柴浸け等に活用する。豊かな海づくり（海の再生）と植樹（森づくり）を連携し、環境の保全と併せて地域への貢献を図る。	900
香川	川西地区地域づくり推進協議会／丸亀市「川西町南部」森の再生事業	成木30本の植樹。行政が水路改修のため樹木を伐採したので成木を植えなおし、将来的には公園にする。	457
兵庫	兵庫県阪神南県民センター尼崎管理事務所／尼崎の森中央緑地・環境体験学習推進事業	尼崎の森中央緑地で、地元の小学生や公園利用者を対象に、森づくり活動（種まき・植替・植樹等）の環境体験学習を実施する。生物多様性の森を100年かけて作る取り組みの一環。	100
大阪	堺市環境政策課／自然体験学習「堺の海で漁業体験」	漁船に乗り込み、漁業体験と水質環境調査手法を学ぶ環境学習の実施。	293

3 助成事例紹介

団 体 名	ベネッセコーポレーション
プロジェクト名	直島倉浦地区 ヤマツツジ植栽整備計画
活 動 地	香川県直島町字倉浦
助 成 採 択 年 度	2020 年度
プロジェクトの概要	ベネッセコーポレーションでは直島倉浦地区の瀬戸内海国立公園園地事業エリアにおけるギャラリー兼休憩所を含む園地の整備の一環として、その事業エリアに隣接する斜面地に 1000 本のヤマツツジを植樹する。
助 成 理 由	事業エリア周辺では、瀬戸内オリーブ基金が発足して間もないころからオオシマザクラの植樹など荒れ地の修景整備の取り組みに支援してきた。今回の事業も、美しい瀬戸内の風景の継承という、瀬戸内オリーブ基金の主旨に沿った象徴的な取り組みとして捉え、支援（助成）を行った。

直島では、豊かな自然の中で現代アートに接し、感性を育むことのできる「文化の島」をめざして30年以上にわたり美術館や宿泊施設の整備、荒廃地の緑化などの取り組みが進められています。今回の事業エリアである倉浦地区は、最新のギャラリーが完成間近の状態で、それに併せて周辺を園地として整備する計画が進められています。

事業エリアの一部にはもともとヤマツツジが自生しており、春になるとこれも瀬戸内オリーブ基金の支援で植樹されたオオシマザクラと相まって、色鮮やかな美しい景観を生みだし、斜面地にそってヤマツツジを更に1000本増殖する今回の事業によって、未来へと継承すべき瀬戸内の象徴的な風景としてますます醸成される効果が期待できます。



第3部 直轄事業

1. ゆたかな海プロジェクト（瀬戸内海の海洋プラスチックごみを減らす活動）

オリーブ基金では、2009年度から高松市の4つの漁協（高松市瀬戸内漁協・香西漁協・女木島漁協・男木島漁協）のご協力を得て、海底に大量に沈んでいる海ごみの問題に取り組んできました。近年、海洋プラスチックごみの問題がますます深刻化しています。世界中で海に流れ込むプラスチックは年間800万トンとの試算があり、2050年にはプラスチックごみの重量が魚の重量を超えるとも言われています。プラスチックごみは細かく砕かれてマイクロプラスチックとなり、生物や環境を汚染します。

海洋プラスチックごみ問題は、豊島の産業廃棄物と同じく大量廃棄の問題であり、私たちの便利で快適な生活が持続可能なのかが問われています。「豊かな島と海を次の世代に」つないでいくために、オリーブ基金は「ゆたかな海プロジェクト」を直轄事業として立ち上げ、展開しています。

「ゆたかな海プロジェクト」は、市民のみなさまとともに海洋プラスチックごみの発生を抑制し、発生した海洋プラスチックごみを回収する活動です。海洋プラスチックごみの発生を抑制するためには、ペットボトル飲料などプラスチック製品をなるべく使わないようにすること、街中のプラスチックごみが海に流れ込むことを防ぐこと（街中のごみを拾うこと）などが必要です。海ごみが発生する仕組みについても正しい理解が求められています。発生してしまった海洋プラスチックごみは、マイクロプラスチックになる前に回収しなければなりません。この活動は日本財団・離島センターからの助成を受けて活動をしています。

1-1 オリーブフォーラムの開催

瀬戸内海エリアにおいて海洋プラスチックごみ問題に取り組むリーダーを育成するとともに、幅広い市民の参加を求め、オリーブフォーラムを小豆島と岡山の2カ所で開催しました。

■オリーブフォーラム in 小豆島

日時：2020年9月12日（土）～13日（日）

場所：小豆島・土庄町中央公民館大ホール（13日は中ホールと土庄町市街地）

1日目 市民講座・海ごみリーダー育成講習会：80人

講演 未来のために知っておきたい海とプラスチックの話（大阪商業大学 原田 禎夫氏）

講義 スポーツごみ拾い講習（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 馬見塚 健一氏）

講義 先行事例に学ぶ（NPO 法人海さくら 古澤純一郎氏）

2日目 海ごみリーダー育成講習会：24人

実習 スポーツごみ拾い模擬実施（講習と実践）

講師：一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 馬見塚 健一氏

○瀬戸内海エリアで海ごみをテーマに活動している団体に呼びかけ、小豆島において海ごみに関するリーダーを育成する講習会を開催しました。また、講義の一部を市民向け公開講座にしたことから、小豆島（土庄町・小豆島町）を中心とした多くの市民が参加しました。地元高校生グループから5人が参加し、若い世代にも海ごみ問題を考えてもらうきっかけになりました。

○1日目の公開講座では、原田禎夫氏（左下写真の左側）がアメリカなど海外の事例を中心に映像資料を使い、プラスチックごみの何が問題なのかについてわかりやすく解説しました。午後からの海ごみリーダー育成講習会では馬見塚健一氏（右下写真）から、2日目に開催するスポーツごみ拾いの運

営方法について詳しく学び、古澤純一郎氏（左下写真の右側）からは「日本一楽しいごみ拾いへの挑戦」をテーマとして、幅広く市民を巻き込んでいく考え方について学びました。

○2日目は、5チームに編成された参加者が実際に市街地に出てスポーツごみ拾いを体験しました。



■オリーブフォーラム in 岡山

開催日：2020年11月21日（土）

場 所：岡山国際交流センター・国際会議室

参加人数：約 80 人

内 容：

△基調講演 「石油文明との決別－プラスチックと私たち－」 同志社大学名誉教授 郡 嶋 孝 氏

△活動報告 1 「瀬戸内オリーブ基金の海ごみへの取組み」 瀬戸内オリーブ基金事務局

△活動報告 2 「スポーツごみ拾いを事例に」 ビーチクリーンしまなみ 春木 信二氏

△活動報告 3 「京都保津川からの挑戦：内陸部から海ごみを減らそう！」

亀岡市川と海つながり共創プロジェクト 中川 眺氏

○基調講演では、郡嶋孝氏から現在深刻化しているプラスチック問題について、内陸部、上流域から海ごみの問題を今考える必要性について、事例をふまえながら講演いただきました。

○活動報告として瀬戸内オリーブ基金から、海ごみに関する活動、ビーチクリーンしまなみから遊びと絡めた海の調査などの活動、川と海共創プロジェクトから内陸部の子どもたちに向けた海ごみの環境学習や亀岡市保津川を中心とした河川や海岸でのごみの調査の活動について、それぞれ報告をいただきました。



1-2 スポ GOMI 開催報告

スポ GOMI とは、一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが「スポーツ」と「社会奉仕活動」の融合による「スポーツで、街をキレイにする！」活動です。このスポ GOMI は、企業や団体が取り組む従来型のごみ拾いに「スポーツ」の要素を加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の全く新しい取り組みです。

オリーブ基金ではフォーラムにあわせ、海ごみリーダー育成講習会を開催し、受講者 24 人にスポ GOMI の手法や幅広い市民の巻き込み方などの講習を受けていただきました。その後、5カ所においてスポ GOMI を開催し、参加者 295 人に海ごみに対して関心を持ってもらう機会を提供しました。

■オリーブフォーラム in 小豆島 【再掲】

日時：2020年9月12日（土）～13日（日）

場所：小豆島・土庄町中央公民館大ホール（13日は中ホールと土庄町市街地）

1日目 市民講座・海ごみリーダー育成講習会：80人

講演 未来のために知っておきたい海とプラスチックの話（大阪商業大学 原田禎夫氏）

講義 「スポーツごみ拾い講習」（一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 馬見塚健一氏）

講義 「先行事例に学ぶ」（NPO 法人海さくら 古澤純一郎氏）

2日目 海ごみリーダー育成講習会：24人

実習 「スポーツごみ拾い模擬実施（講習と実践）」

講師：一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 馬見塚健一氏



■各地におけるスポごみの開催状況

開催日	大会人	開催場所	開催団体	動員人数
10月11日 （日）	スポーツごみ拾い in 唐子浜	愛媛県今治市 唐子浜	ビーチクリーンしまなみ	93人
10月25日 （土）	スポーツごみ拾い in 岡山	岡山県岡山市 北区 津高地区	NPO 法人 グリーンパートナー岡山	47人
10月11日 （日）	スポーツごみ拾い in 岡山市善隣館	岡山県岡山市 中区 善隣館	岡山パールライオンズクラブ	21人

11月14日 (土)	吉田の海 スポごみ大作戦	愛媛県宇和島市 吉田町 白浦海岸	宇和島 NPO センター	66人
12月13日 (日)	スポーツごみ拾い in 高松第一	香川件高松市 松島地区	高松市松島地区コミュニティ 協議会 スポごみ実行委員会	68人

■事例紹介【スポーツごみ拾い in 唐子浜】

日時：10月11日（日） 9:55～10:55（競技時間）

場所：愛媛県今治市・唐子浜 参加者：93人

拾ったごみの量：248.775kg（内訳） 燃えるごみ 159.42kg 燃えないごみ 69.04kg
ペットボトル 9.815kg カキパイプ 10.50kg

チーム順位：1位 ほんむすび 2位 チームからり 3位 チーム今治青年会議所（JC）

実施状況：台風後のため、多くのごみが砂浜に漂着していました。地元企業・海洋少年団・JC・短期大学留学生など多様な人たちが参加し、スポーツを取り入れたごみ拾いということで楽しみながら実施することができ、また地元企業から多くの協賛商品を提供していただきました。



1-3 海岸漂着ごみの回収活動

オリーブ基金の事務所がある豊島ではボランティアのみなさまとともに、海岸に漂着したごみの回収を行っています。

2020年度にはNGP日本自動車リサイクル事業協同組合様のボランティア活動として、豊島・横引ヶ浜の海岸を9人のボランティアで約1時間清掃し、15.6kgの漂着ごみを回収しました。2019度から継続して実施しているこの場所には、大きな漁業ブイ等の漂着は少なくなり、当日は細かく砕けた発泡スチロールやペットボトルなど、比較的小さなプラスチックごみを回収しました。また回収するごみの量は、回を重ねるごとに減っています。

2. 豊島・ゆたかなふるさとプロジェクト（国立公園原状回復事業）

豊島の産業廃棄物不法投棄によって失われた自然を再生し、次世代に引き継ぐ事業です。その現場は瀬戸内海国立公園の中にありましたが、緑豊かな白砂青松の地であった海辺は長期間にわたり海浜や山の土砂が採取・掘削され、表土が失われています。それに加え、不法投棄によって植生がかく乱されており、国立公園とは名ばかりの状態になっています。オリーブ基金では、現在多くの住民や企業ボランティアの協力を得て、この場所を国立公園にふさわしい状態に回復する取組みを続けています。この活動は、トヨタ自動車株式会社のトヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて活動をしています。

2-1 植生回復の状況

岡山大学大学院環境生命科学研究科教授 嶋一徹氏の助言と指導をいただきながら、不法投棄現場における植生の多様性の取り戻し、外来植物を除去する活動を始めて5年が経ちました。人の手による「自然を造成する」のではなく、自然がゆっくり回復できるようにすることを目的に、植生遷移の流れに沿って、多種多様な種子を含んだ表土を撒くことで、風や鳥によって運ばれた種子が自然に発芽し定着できる環境の整備を進めています。

主には、（株）ユニクロ様、（株）ジーユー様のボランティア活動による下草刈りや表土を撒く作業を実施し、あわせて豊島小中学校とは、一緒にツツジの育苗・植栽活動を継続しています。植栽活動は4年目に入り、当初に植えたツツジの中には、1メートル以上に成長したものもあります。大変地道な活動ですが、徐々に成果が出はじめています。

2-2 ボランティアとの取り組み

新型コロナウイルスの影響により、予定していた企業ボランティア活動の8割は中止となりましたが、その中でも十分に感染対策を行なった上で、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合様・（株）ルーヴ様から、ボランティア活動に参加されました。

主な活動として、オリーブの収穫や海岸清掃、豊島の耕作放棄地を整備したフラワーガーデンの管理などを行いました。



3. 豊島事件を語り継ぐ活動

日本が大量消費型社会から循環型社会へと大きく転換していくきっかけとなった、豊島事件の意義と教訓を次の世代に継承し、このような事件を二度と起こさないようにするために、オリーブ基金は豊島事件を語り継ぐ活動に取り組んでいます。2020年度からは地球環境基金の助成を受けて、豊島事件のアーカイブ作成や資料の整理と更新などを行っています。

3-1 豊島展の開催

オリーブ基金では、日本最大規模の不法投棄といわれた香川県豊島の有害産業廃棄物不法投棄事件（豊島事件）の現状を広く市民の皆様にご報告するとともに、その意義をあらためて考えることを目的として、写真パネル展示を中心に豊島展を実施しました。

期 間：2020年11月12日（木）～18日（水）

場 所：岡山大学津島キャンパス 大学会館



○今回の豊島展には、岡山大学の学生を中心に来場いただき「展示の流れに沿って、時代ごとに起きた島の歴史や事件について知ることができ、とても興味深かった。個人的には1番最後の展示されていた、現在の豊島の姿の写真が特に印象的でした」といった声が寄せられました。

○産廃処理業者の兵庫県警による摘発から、ちょうど30年となる11月16日に廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長は「一度環境が汚染されると、原状回復に膨大な時間とコストがかかり、産廃の搬出と処理は終わったものの、汚染された地下水の浄化作業が現在でも続いていること、豊島事件を知らない若い世代にもこの事件を知ってもらうため、語り継がなくてはならない。」とコメントしました。

3-2 豊島心の資料館の内部リニューアル、外壁工事

不法投棄現場にある「豊島のこころ資料館」は、有害廃棄物を持ち込んだ事業者が現場事務所として使用していた建物を利用して、豊島住民が自らの手で作った資料館です。資料館の中には産廃（シュレツダグスト）の剥ぎ取り壁面が展示されているほか、数十年にわたる豊島事件に関する資料が展示されています。

近年は、内部資料の更新や重要な資料の保存が十分にできておらず、長年の風雨による外壁や屋根の老朽化が進み、雨漏りも発生していたため、2020年度は内部資料の更新と保存の徹底を行い、見学者の理解が深まる展示内容になるように努めました。また、あわせてNGP日本自動車リサイクル事業協同組合様からのご寄付により、外壁の補修工事を行うことができました。



外壁 補修前



補修後



内部リニューアルの様子

3-3 アーカイブページの改訂

豊島事件について詳しく学べるアーカイブページ「豊島・島の学校」の情報の更新を行いました。ぜひ一度ご覧ください。

4. 豊島のオリーブ

オリーブ基金では、2014年度から住民から委託をされた、約1ヘクタールのオリーブ園管理を行い、住とともにオリーブ木を育成・栽培しており、搾油したオリーブオイルから食用オリーブオイル・洗顔石鹸・美容オイルを製造・販売しています。2020年度の収穫量は2428kg、搾油量は145kgとなり、今年も香川県の定めるオリーブオイル品質評価基準である「プレミアム」の評価を受けています。

また、オリーブ収穫時期には（株）ルーヴ様が取引先を招待した収穫祭（10月28日）にあわせ、不法投棄現場見学・オリーブ収穫体験・搾油見学・オリーブオイルの試飲などを組み合わせた環境学習プログラムを体験していただきました。その際に、四国新聞から取材を受けた（株）ルーヴの野崎社長は「SDG'sの取り組みとして今後も活動を続



け、地元の未来や地球環境を思う洋菓子店でありたい」と話しています。（2020年11月11日四国新聞掲載）

5. 広報活動

設立から20年間オリーブ基金の活動に対して、たくさんの市民の方々や協力企業から支援をいただいています。瀬戸内海の自然を次の世代に引き継いでいくためには、さらにオリーブ基金の活動をより多くの方々に知っていただくことをめざして、Webサイト・SNS・島内広報など情報発信・広報活動に力を入れて取り組んでいきます。



5-1 ウェブサイトのリニューアル

オリーブ基金の活動がより伝えられるよう、2020年8月にオリーブ基金のミッションや各事業について、写真や表を用いながらわかりやすくまとめたウェブサイトへリニューアルしました。今後も最新ニュースや法人パートナー・法人サポーターなど協力企業との取り組みについて、更新していく予定です。



5-2 広報掲載報告

2020年度は、さまざまなメディアでオリーブ基金の活動を取り上げていただきました。（一部紹介）

■ユニクロ Life Wear Magazine

全国のユニクロ店舗で配布している刊行物「Life Wear Magazine」4号（2021年2月刊行）では、建築家 安藤忠雄氏（オリーブ基金設立呼びかけ人／理事）のインタビューが掲載され、豊島の産業廃棄物問題との出会い、オリーブ基金設立への思い、現在のかつ動などについて話をしています。

■新聞など

山陽新聞 社説（2020年12月5日）「オリーブ基金20年 瀬戸内の環境を守るために」

朝日新聞 香川地方版（2020年11月22日）「瀬戸内海で環境保全 [瀬戸内オリーブ基金] 創立20年」

■豊島・島内広報

オリーブ基金では年に4回、豊島の住民の方に向けて豊島での活動を中心に島内広報を発行しています。

第4部 運営報告

1. 決算

■事業会計収支に関する事項

当期の経常収益は 26,253 千円、経常費用は 32,205 千円。経常費用の内訳は特定非営利活動にかかる事業の事業費が 20,599 千円、管理費が 11,606 千円でした。当期経常増減額は 5,951 千円の減、次期繰越正味財産額は 50,345 千円です。

■ご寄付と事業収益の状況

寄付金収入は 20,593 千円、受取助成金は 2,572 千円、事業収益は 2,956 千円でした。

2. 助成金（外部資金調達）と活動報告

団 体	活動内容	助成金（円）
日本財団	○瀬戸内海島嶼部の海洋ごみ問題に対処するリーダー育成事業	2,110,000
日本離島センター 離島人材育成基金 助成	○オリーブフォーラム 2020 in 小豆島兼海ごみリーダー育成講習会 ○実施モデル解説書の作成・モデル実施計画の策定 瀬戸内海エリア 5 か所でスポーツごみ拾いを実施し、その過程を通じ必要な体制・ツール類を整備した。 ○オリーブフォーラム 2020 in 岡山	462,000
トヨタ自動車	○香川県豊島における瀬戸内海国立公園原状回復事業 ・植物の多様性に欠く瀬戸内海国立公園の一角である豊島を市民の手で生物多様に富む国立公園にふさわしい状態にする。市民団体・住民・企業ボランティア・大学の協働で、復元した場所は環境教育の場として活用する。	492,900
地球環境基金	○地球規模でのゼロエミッションを実現するための豊島産業廃棄物不法投棄事件の歴史的資料の活用。 ・豊島事件の意義と教訓を明らかにし、次の世代に継承する。 ・豊島事件の資料や映像等をアーカイブ化、資料館の内外部の改修と展示物・資料の更新、語り部の養成、市民・企業への環境学習の実施	763,000

3. 理事会・総会・運営委員会

■理事会・総会開催状況

[2020年度第1回理事会]

日時：2020年6月27日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2019年度事業報告・収支報告審議、2020年度事業計画・予算審議

[2020年度第1回通常社員総会]

日時：2020年6月27日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：2019年度事業報告・収支報告審議、2020年度事業計画・予算審議

出席社員数：10人（うち1人は委任状出席）

[2020年度第2回理事会]

日時：2020年11月28日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：定款改訂

[2020年度第1回臨時社員総会]

日時：2020年11月28日

場所：梅田新道法律事務所

主な内容：定款改訂

出席社員数：10人（うち1人は委任状出席）

[2020年度第3回理事会]

日時：2021年1月16日

場所：梅田新道法律事務所、Zoom ミーティング

主な内容：定款改訂

[2020年度第2回臨時社員総会]

日時：2021年1月16日

場所：梅田新道法律事務所、Zoom ミーティング

主な内容：定款改訂

出席社員数：10人（うち1人は委任状出席）

[2020年度第4回理事会]

日時：2021年2月20日

場所：梅田新道法律事務所、Zoom ミーティング

主な内容：経理規程と細則

■運営委員会開催状況

出席者：理事、監事、運営委員、企画委員

場所：梅田新道法律事務所

※第1、2、10、11、12回は新型コロナウイルスの影響からオンライン会議ツールを使用したオンライン会議による運営委員会の開催

開催回	開催日	主な審議議題
第1回	2020年4月18日	新型コロナウイルスの影響による事業変更/年次報告書目次案/事業計画・予算案/理事会総会の開催方法/他
第2回	2020年5月23日	年次報告書文章案/法人パートナー等会員の整理/ウェブサイト改訂/事業計画・予算案/助成公募/他
第3回	2020年6月27日	正会員の整理/豊島事件語り部の育成/海ごみ講習会/20周年記念行事について/他
第4回	2020年7月25日	海ごみ講習会/20周年記念行事/事務局業務担当/助成説明会/他
第5回	2020年8月25日	職員募集/海ごみ講習会/20周年記念行事/美容オリーブオイルの作成/ウェブサイト修正案/有給休暇/マイボトル進捗状況報告/他
第6回	2020年9月19日	オリーブフォーラム 2020in 小豆島の振り返りと今後の活動/20周年記念行事/ウェブサイト新ページ作成/マイボトル進捗状況報告/助成報告/他
第7回	2020年10月24日	助成審査/20周年記念式典・オリーブフォーラム/豊島展/事務局業務担当/ウェブサイト進捗状況報告/スポごみ開催状況報告/オリーブ収穫・搾油状況/報告他
第8回	2020年11月28日	20周年記念事業の振り返りと今後の活動/事務局目標設定/オリーブ収穫・搾油報告/スポ GOMI 開催状況報告/他
第9回	2020年12月19日	事務局業務引き継ぎ/スポ GOMI 開催状況報告/他
第10回	2021年1月16日	事務局業務引き継ぎ/豊島事件語り継ぎ事業/メディアなど对外発信に対する対応/助成先からの要望/オリーブ販売状況報告/他
第11回	2021年2月20日	年次報告書目次案/事務局リモートワーク/育児休暇・介護休暇規定/外部資金の応募/求人募集状況報告と今度の対応/他
第12回	2021年3月27日	年次報告書文章案/事務局引き継ぎ資料/来年度計画/GU マイレージポイント状況報告/会計監査報告/求人募集状況報告/他

4. 運営委員・事務局紹介

4-1 運営委員紹介

役名	氏名	所属
理事（理事長）	岩城 裕	弁護士（大阪弁護士会所属）
理事（副理事長）	青木 智弘	ふれあい臨床検査センター（神奈川県茅ヶ崎市）
理事	安藤 忠雄	建築家（安藤忠雄建築研究所）
理事	中地 重晴	熊本学園大学社会福祉学部教授
監事	新田 幸弘	株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ）
監事	藤田 恵介	公認会計士・税理士
運営委員	十河 完也	安藤忠雄建築研究所
運営委員	シェルバ 英子	株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ）

4-2 事務局紹介

退任のご挨拶：伴場 一昭

2021年5月末をもって退職いたします。2006年12月に豊島に事務所を開設したとき以来、皆様には大変お世話になってまいりました。2009年頃からは主として海ごみに関する事業や豊島展を担当させていただきました。今後も豊島に住んでいますので、お会いしたときはよろしく申し上げます。

新任のご挨拶：山元 秀穂

2021年4月からオリーブ基金事務局に入局し、7月1日からはオリーブ基金事務局長に就任しました。豊島事件調停成立をきっかけに始まった、オリーブ基金の取り組みを多くの皆様に知っていただき、応援していただけるよう務めてまいります。今後も引き続き、よろしくお願いいたします。



事務局長 山元 秀穂

5. ご寄付・ご支援のお願い

オリーブ基金の活動はみなさまからのご寄付・ご支援により運営されています。お寄せいただいたご支援は瀬戸内海の美しい自然を次の世代に引き継ぐために、責任をもって瀬戸内海エリアの環境保全に取り組む団体に支援するなど、未来につないでいく活動に活用します。

ご寄付、募金箱の設置、オリーブ製品のご購入などどのような形でも結構ですので、オリーブ基金の活動を支えていただければ幸甚に存じます。

■お振込みによるご寄付

振込先 ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店
当座 0068797 特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金

■募金箱へのご寄付

現在、全国のユニクロとジーユーの1200店舗をはじめ、廃車王取扱店など多数の場所にオリーブ基金の募金箱を設置していただいております。広く多数の方にご支援いただくために、募金箱を設置していただける企業や店舗を募集しています。

■GU マイレージプログラムのご案内

株式会社ファーストリテイリング傘下のファッションブランド「ジーユー」では、ジーユー公式アプリを通して、お買い物や店頭での服のリサイクルで貯まるジーユーマイルを、商品との交換だけでなくサステナブルな活動をしているパートナー団体に、いつでもどこでも簡単に寄付いただける取り組みを開始いたしました。瀬戸内オリーブ基金もパートナー団体の寄付先として参加しています。ジーユーアプリの会員証ページから「寄付をする」を選択し、瀬戸内オリーブ基金を選ぶと、1マイル=1円として寄付することができます。

特定非営利活動法人瀬戸内オリーブ基金(認定)

761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦 3837-4

E-mail : info@olive-foundation.org 電話 : 0879-68-2911 FAX : 0879-68-2912